

# 「いこま市民パワー株式会社」

ECO-MODEL CITY  
IKOMA

エネルギーの地産地消、地域活性化等  
シュタットベルケに向けた取組みと今後の展開



2018.5.15

生駒市長 小紫 雅史

# 1. 住宅都市初の環境モデル都市いこま

## 2. いこま市民パワー株式会社の概要

### 3. 会社設立の目的①「『稼ぐ』まちをつくる」

### 4. 会社設立の目的②「市民の活躍の場(自治体3.0)」

### 5. 会社設立の目的③「より環境に配慮したまちづくり」

## 6. 今後の展開

奈良県北西部に位置する人口約12万人

面積約53km<sup>2</sup>の住宅都市

## 特徴

1. 大都市近郊の住宅都市
2. 自然豊かで歴史のある街
3. 高い市民力



## 課題

### 1. 少子高齢化

⇒人口増加により安定していた財政構造に揺らぎ

### 2. 産業構造の弱さ

⇒地元事業者の育成不十分、地元消費率低い



**全国の住宅都市共通の課題**

## 市民力＝生駒市の最大の財産

**アクティブシニア**

人生100年時代

→ 企業や団体で培った  
経験をまちづくりに

**専業主婦**

女性の就業率全国一低い

→ 大きなポテンシャル

例)マイバック持参率(H26年度の一斉有料化以前)58.0%  
太陽光発電設置率(H28年度) : 10.7%

## 市民が活動するプラットフォームづくり



いこままるしえ

## 市民が活動するプラットフォームづくり



ECOKA委員会による植樹活動

**住宅都市共通の課題**



**高い市民力を活かして対応**



**「受け皿」「しかけ」が必要**



**いこま市民パワー設立へ**

1. 住宅都市初の環境モデル都市いこま

2. いこま市民パワー株式会社の概要

3. 会社設立の目的①「『稼ぐ』まちをつくる」

4. 会社設立の目的②「市民の活躍の場(自治体3.0)」

5. 会社設立の目的③「より環境に配慮したまちづくり」

6. 今後の展開

## 平成26年3月に**環境モデル都市**に選定 『**市民力**』をキーワードとした取組が高く評価 大都市近郊の住宅都市では**全国初**

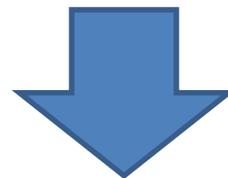


# いこま市民パワー株式会社の概要(H29.7設立)

## 出資者・出資額

出資者	金額	主な役割
生駒市	765万円 (51%)	市政方針との連携 公共施設の電力調達
大阪ガス(株)	510万円 (34%)	需給管理、電力のバックアップ、運営協力
生駒商工会議所	90万円 (6%)	地域企業との連携協力 事業を通じた地域活性化
(株)南都銀行	75万円 (5%)	事業を通じた地域活性化の進め方、 財政面での支援
(一社)市民エネルギー生駒	60万円 (4%)	太陽光発電からの電力供給、市民と 事業をつなげる。
合計	1,500万円 (100%)	

市民団体が出資する  
新電力は全国初



核となるプレイヤーの参画により理念達成を確実に

# いこま市民パワー株式会社の概要

## ○電力供給先(H33の目標)

公共施設 (H29.12~)	公共施設80施設
民間施設 (H30.2~)	民間施設10施設
家庭向け (H31~予定)	5,000戸 (市内全世帯の約1割)

※事業開始5年目(平成33年度)の計画  
 :売上目標約10億円  
 供給量約16,379KW

当初供給量  
 公共53施設  
 約4,000kW

# いこま市民パワー株式会社の概要

## ○電力調達先(H30.4 現在)

市所有の電源	太陽光(6施設)
	小水力(1施設)
市民共同太陽光発電所(4基)	
不足分は大阪ガスから調達	

☆市民エネルギー生駒等との連携

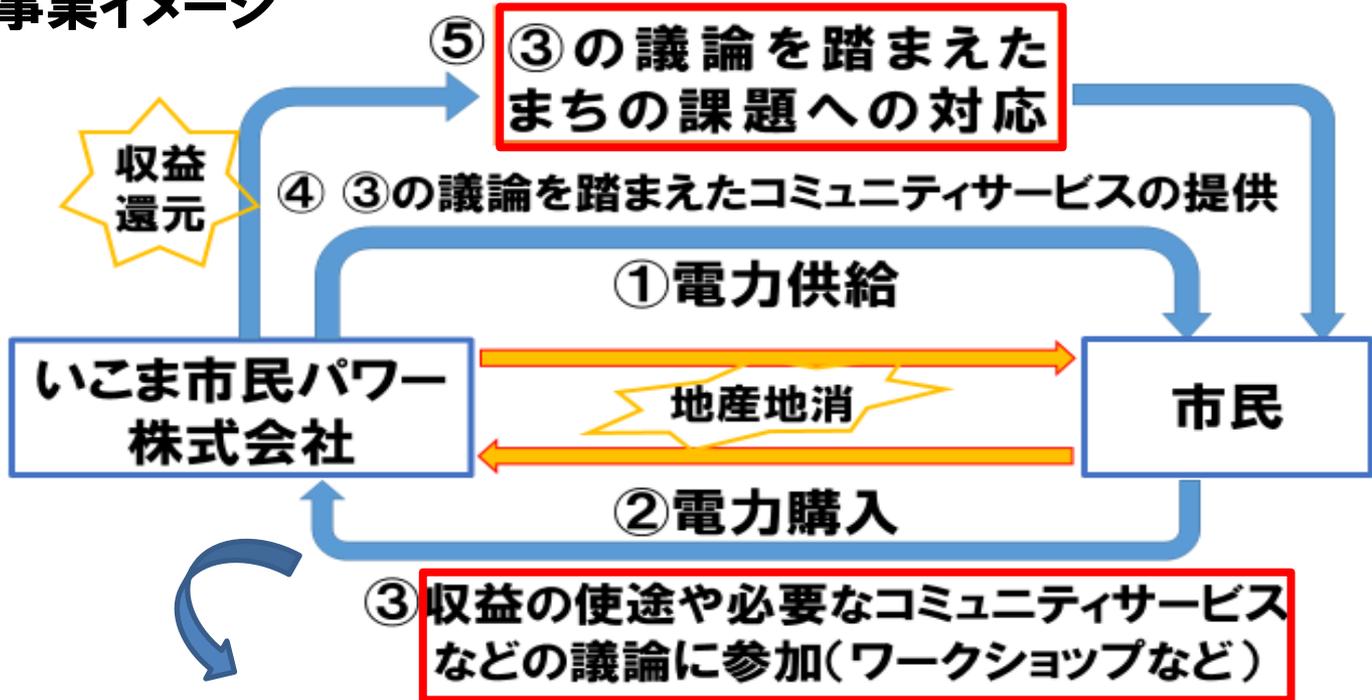
☆家庭、事業所の太陽光発電の買取

☆他の自治体との連携等により

地産の再生可能エネルギー  
電源を順次拡大

# いこま市民パワー株式会社の概要

## ※事業イメージ



契約者である市民とともに  
創っていく仕組を構築

## <コミュニティサービス例>

見守りサービス



離れて暮らす  
家族も安心

ICTサービス

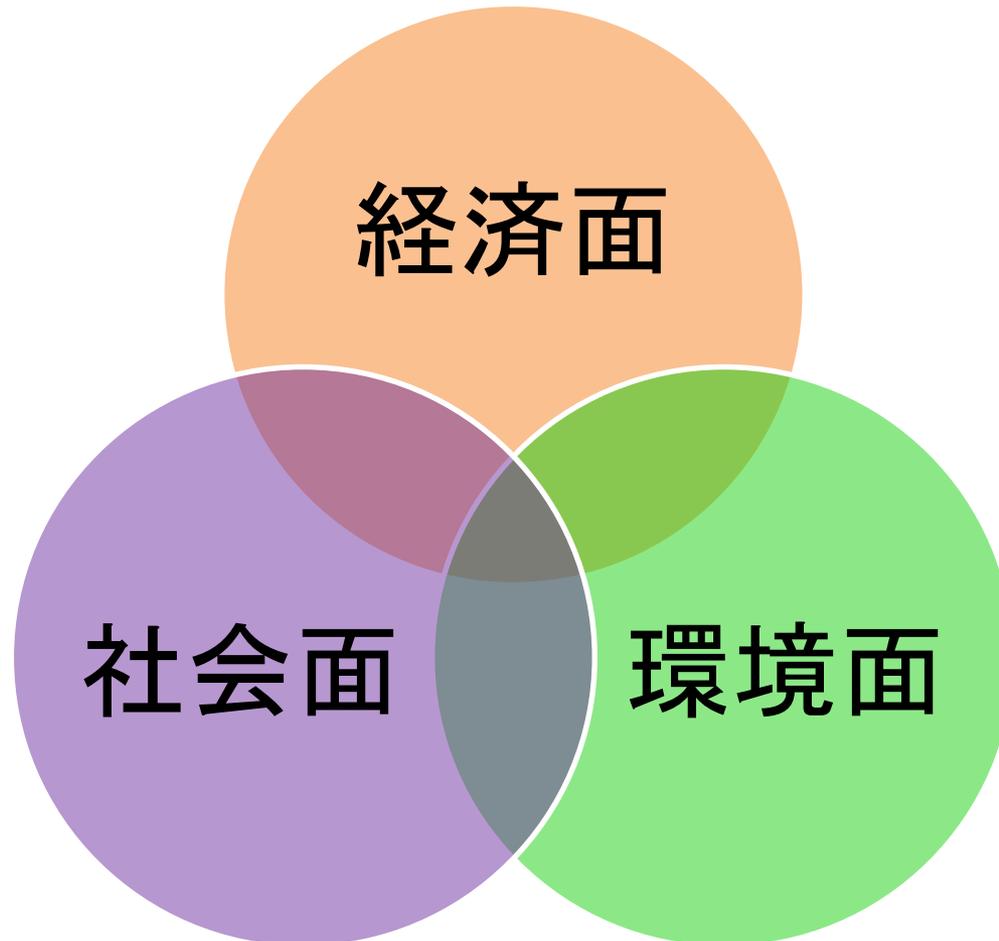


デマンドバス、デマンドタクシー  
ヘルスケアICTを活用した地域健康推進  
サービスなど

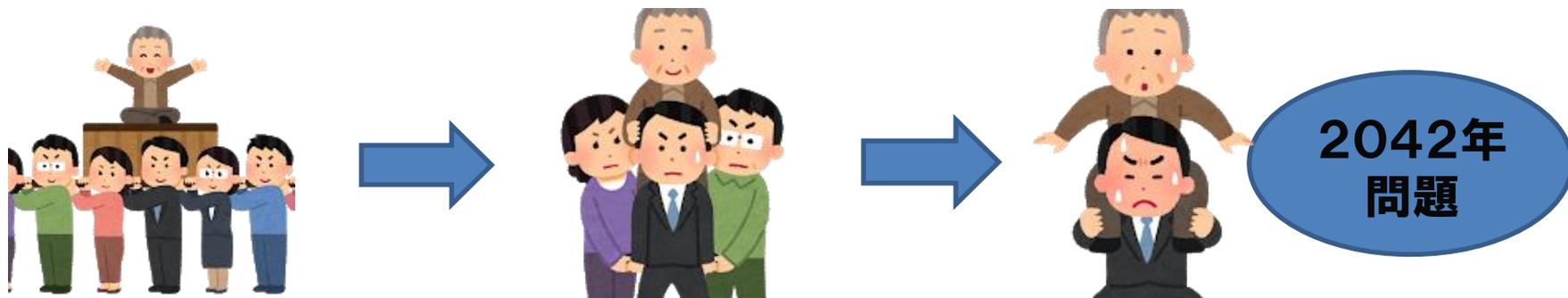


1. 住宅都市初の環境モデル都市いこま
2. いこま市民パワー株式会社の概要
3. 会社設立の目的①「『稼ぐ』まちをつくる」
4. 会社設立の目的②「市民の活躍の場(自治体3.0)」
5. 会社設立の目的③「より環境に配慮したまちづくり」
6. 今後の展開

『まちの魅力向上・課題解決に、  
市民力を活かし、エネルギーを切り口に取り組む』



- ① 経済面からの目的 「『稼ぐ』まちをつくる」  
増大し続ける社会保障費などにコスト削減だけでは対応できない。

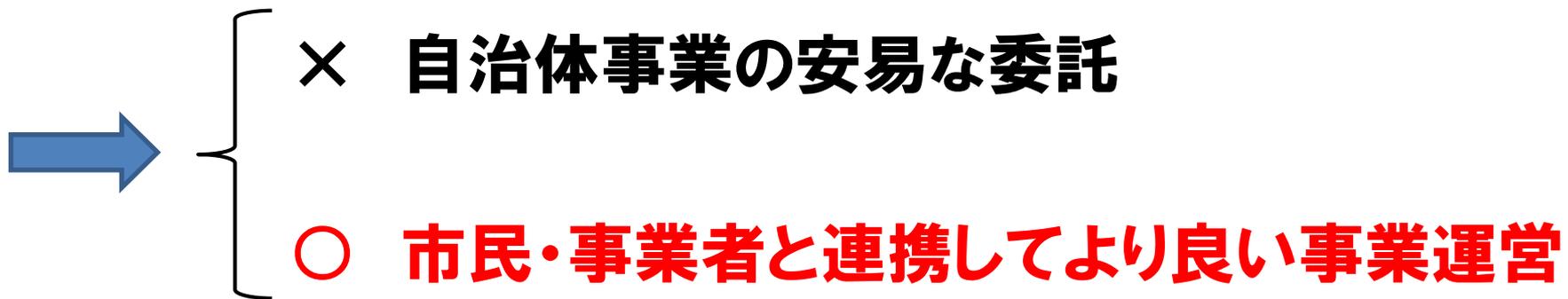


自治体が『稼ぐ力』をもつことが必要

- 例えば
- ・空き家対策
  - ・観光、農業などの産業振興
  - ・市民から寄付を募る
  - ・地域消費率の改善
  - ・学研高山第二工区の開発
  - など

## 地域新電力「いこま市民パワー株式会社」の設立

- ・女性等地元雇用の促進
- ・エネルギーコストの地域内循環
- ・収益は、まちの活性化等のために地域へ還元



1. 住宅都市初の環境モデル都市いこま
2. いこま市民パワー株式会社の概要
3. 会社設立の目的①「『稼ぐ』まちをつくる」
4. 会社設立の目的②「市民の活躍の場(自治体3.0)」
5. 会社設立の目的③「より環境に配慮したまちづくり」
6. 今後の展開

# どうして市民との協働を重視するのか？

## ②社会面からの目的「市民の活躍の場(自治体3.0)」

いこま市民パワーは電力事業としては、規模が小さい

単なる価格勝負では負ける

価格競争だけではなく、生駒市やいこま市民パワーの取組に賛同する市民の力を借りた事業展開

市民は、

- ①顧客であり、
- ②いこま市民パワーの**サポーター**であり、
- ③いこま市民パワーとともに  
いこまのまちを創り上げていく**同士**

→ ワークショップ等の機会を通じて市民の意見を経営やコミュニティサービスに反映させる。

# 自治体3.0のまちづくり

	自治体2.0	自治体3.0
市民との関係	市民＝お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と共に汗をかく</li> <li>・協働、協創</li> </ul>
基本目的	差別化	価値創造
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに応えるのが行政</li> <li>・民間企業に負けない！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民がまちを楽しくする、楽しむ</li> </ul>
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市外の人を呼び込む！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内在住者の満足度 ↑</li> <li>・(結果として) 人口流入、増加</li> </ul>

**ニーズに応えるより、市民に汗をかいてもらう方が満足度が高い。**

市民主体の全額市民出資による太陽光発電事業を運営  
メンバーは企業定年退職者などが中心

## シルバー人材の活躍

企業や団体に培ったキャリアを活かし、  
地域のために活動

## 収益の地域還元の実践

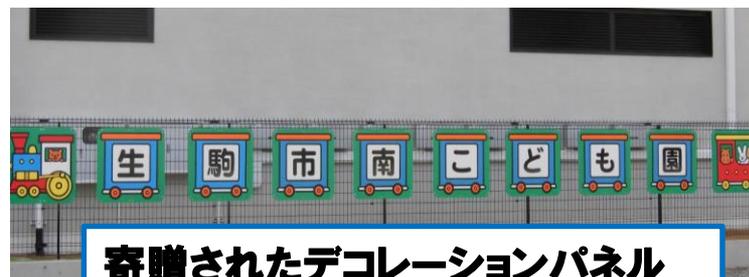
市民の目に見える形での収益  
の地域還元

### 市民力の向上

- ・市民出資比率が8割超。
- ・小口に分け、多くの市民の賛同を促す。



市民エネルギー生駒のメンバー



寄贈されたデコレーションパネル

H28年度  
W受賞

環境省 第4回グッドライフアワード 環境大臣賞優秀賞  
経済産業省 新エネ大賞 新エネルギー財団会長賞



1. 住宅都市初の環境モデル都市いこま
2. いこま市民パワー株式会社の概要
3. 会社設立の目的①「『稼ぐ』まちをつくる」
4. 会社設立の目的②「市民の活躍の場(自治体3.0)」
5. 会社設立の目的③「より環境に配慮したまちづくり」
6. 今後の展開

## ③環境面からの目的「より環境に配慮したまちづくり」

- ・生駒市環境基本計画
- ・生駒市環境モデル都市アクションプラン
- ・生駒市エネルギービジョン

等を策定し、温室効果ガス削減をはじめ様々な環境問題に積極的に取り組む

	直近	目標
二酸化炭素排出量削減率 ※基準年度(2006年)比	10.5%(2015)	35.0%(2030) 70.0%(2050)
太陽光発電普及率	10.7%(2016)	30.0%(2030)

**課題**

**地域の再エネ電源比率が低い**

## 「いこま市民パワー」を核とした再エネの拡大

(1) 市内の住宅や事業所の太陽光発電から余剰電力を積極的に買取

➡ FIT買取期間終了後の電源についても積極的に買取を検討

(2) いこま市民パワーの収益を太陽光発電設備に再投資

(3) 市民エネルギー生駒の発電事業への支援

➡ “市民力”による再生可能エネルギーの普及

## (4) 他自治体など市域外との連携

## (5) 清掃センターでの廃棄物エネルギー利活用の検討

環境省

「廃棄物エネルギー利活用の  
検討・計画策定モデル事業」に採択

➡ ゴミ焼却熱を利用した  
発電設備の導入を検討



# 地域の再生可能エネルギー電源拡大に向けて

## 市民エネルギー生駒による市民共同発電所

**全額市民出資**により4箇所の  
市民共同太陽光発電所が完成

市民による出資で  
70~80%を調達

二号機(南こども園)

一号機(エコパーク21)



四号機(学研高山)

三号機(小瀬保健福祉ゾーン)



市民の力で進める地域エネルギー事業

1. 住宅都市初の環境モデル都市いこま
2. いこま市民パワー株式会社の概要
3. 会社設立の目的①「『稼ぐ』まちをつくる」
4. 会社設立の目的②「市民の活躍の場(自治体3.0)」
5. 会社設立の目的③「より環境に配慮したまちづくり」
6. 今後の展開

## 課題に対する解決策

### 1. 少子高齢化

⇒収益を子育て、高齢者施策に充てる

⇒シルバー人材の活躍、事業への投資などまちへの貢献

### 2. 産業構造の弱さ

⇒いこま市民パワーが『稼ぐ自治体』の象徴

⇒女性等地元雇用の創出、エネルギーコストの流出阻止

# 今後の展開

早期に個別世帯との契約を開始し、

○一般家庭5,000世帯へ規模拡大

○再エネ電源の拡大

○地域内のエネルギーマネジメントを総合的に行う

**アグリゲーター**としての役割

○市民生活の質の向上につながる

**コミュニティサービス**の実施主体

## 今後の展開

コミュニティサービスとして、  
見守りサービス、ICTを活用したサービス、  
空家の利活用、水道事業との連携等へ展開

さらに、  
市、自治会、民生委員、市民団体ともコラボ



生活総合支援事業としての

**日本版シュタットベルケモデルの構築**